

令和6年度 青少年読書感想文全国コンクールへの応募について

夏休みに、自分のお気に入りの一冊を見つけて、感想文を書いてみましょう。

1 対象図書について

- ①自由図書……★課題図書以外の図書。フィクション、ノンフィクションを問いません。
★対象外図書～教科書・副読本・テキスト類・パンフレット・外国語で書かれた図書
- ②課題図書……★低・中・高学年別 各4冊



低学年・・・『アザラシのアニュー』 『ごめんねでてこい』
『おちびさんじゃないよ』 『どうやってできるの？チョコレート』

中学年・・・『いつかの約束1945』『じゅげむの夏』
『さようならプラスチック・ストロー』『聞いて 聞いて!』

高学年・・・『ぼくはうそをついた』『ドアのむこうの国へのパスポート』
『図書館がくれた宝物』『海よ光れ! :3・1 被災者を励ました学校新聞』

2 作品について

- ◆低学年……本文800字以内
- ◆中・高学年……本文1200字以内
- ◆句読点、改行のための空白も字数に数えます。
- ◆**題名、学校名、氏名は字数に数えませんが、原稿用紙のマスではなく、欄外に書きましょう。**
- ☆原稿用紙には、感想文本文から書き始めます。
- ☆1, 2年生は、240字詰め原稿用紙を使用してもよいです。800字を超えないようにします。
- ☆8月28日(水)に担任に提出してください。(厳守)

3 感想文の書き方について

読んだ本の中で「いいな」「おもしろいな」「へえ!!」「ジーンときた」「なるほど!」など・・・
心に感じたことを感想文に書いてみましょう。

ポイント① 読み手を意識しましょう。

これから書く感想文は、今、自分が読んだ本を読んだことがない人が「読んでみたいなあ」と思わせるような書き方ができたら最高です。常に、読み手を意識してわかりやすい言葉で書きましょう。

ポイント② 書き出しを工夫しましょう!

- ・心に残った会話文から
- ・本を選んだ訳から
- ・共感したこと、びっくりしたことから
- ・主人公への手紙のように
- ・作者の思いを感じたことから
- など・・・

ポイント③ あらすじよりも自分の思いを書きましょう!

本のあらすじを書いて終わってしまうものは感想文ではありません。その本を読んで思ったこと、感じたこと、考えたことなど自分の「心を言葉に表す」ことが大切です。

あらすじよりも、心に残った場面について自分の思いを書きましょう。

ポイント④ ふせんやメモを使って感想文を書く準備をしましょう!

自分の気に入った場面や心に残った場面についてふせんやメモをはさんでみましょう。その紙には、どこが気に入ったのか、その時自分はどう思ったか・・・などを書くことで、感想文が書きやすいです。

ポイント⑤ 終わりが大切です!

感想文の終わりは学んだことやこれからの自分に生かしたいことなどを書いてみましょう。
素直な気持ちで書けると読み手に伝わります。

ポイント⑥ 題名は最後に書きましょう!

「○○○を読んで」ではなく、感想文全体の内容(自分の伝えたいこと)を短く分かりやすくまとめた題名にしましょう!

